

Let,s make Ceramic tree in biruke

ビルケの森にセラミックツリーの森を作ろう！



「こども陶芸展 in びえい」 発展的構想 Let,s make Ceramic tree in biruke

ビルケの森にセラミックツリーの森を作ろう！

造形集団「かまぐれ」主催でこどもの豊かな想像力とこどもの持つ無限の力を伸ばすため、2012年より始めた「こども陶芸展 in びえい」。

全国の応募作品から毎回10～20点程の作品を選び「生きとし生けるもの全て土に帰る」を基本理念として、1,5mのポールに作品を組み立てビルケの森に設置する事業を展開してきました。

2年後の「第10回こども陶芸展 in びえい」を節目とし、未来に向けて継続可能な事業として「ビルケの森にセラミックツリーの森を作ろう」記念プロジェクトを事業計画とします。



(写真はイメージです)

陶にこだわるのは・・・



陶芸粘土は、芸術作品・工業製品・生活道具にもなり、
工芸の世界のみに留まらない柔軟な素材です。

それぞれの大切な思い出や願い、夢を込め、手の中から生まれる作品をツリーにすることによって、小径の道すがら作品に会い眺め、思いを馳せながら楽しむことができます。時間を超えて会いに行ける作品として残り永い時間を経てやがて大地に戻ります。

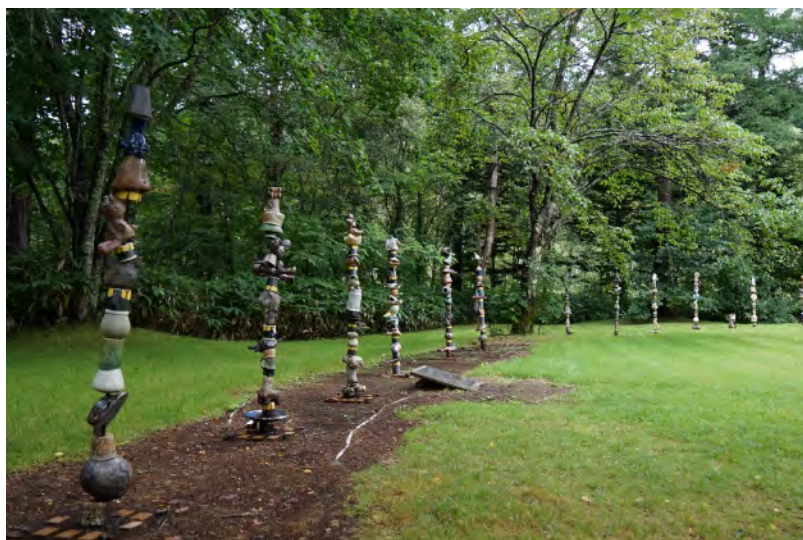
自分の作品と多くの参加者の作品が、セラミックツリーという形で繋り、交流の場所となって永く愛されるビルケの森を作ります。

「生きとし生けるもの 全て土に帰る」



セラミックツリーとビルケの森

セラミックツリーがビルケの森で展開していくことで・・・。



森の小径として

例えば「ビルケの森」と「青い池」までをつなぐ小径を整備し、そこで作品が出迎える。明るく爽やかな森の中を歩く時間は、それだけで心と体を癒してくれるもの。そんな自然のなかで、作品に触れ、それぞれの思いを馳せる。京都の竹林の小径（ちくりんのみち）のように、美瑛らしい小径として。

後世に紡ぐために

全てのツリー下部に、製作者名を刻んだプレートを設置。その場に作品と名前が残ることで、その時の確かな自分の存在を思い出したり、セラミックツリーと共に後世にも紡いでいく証として。

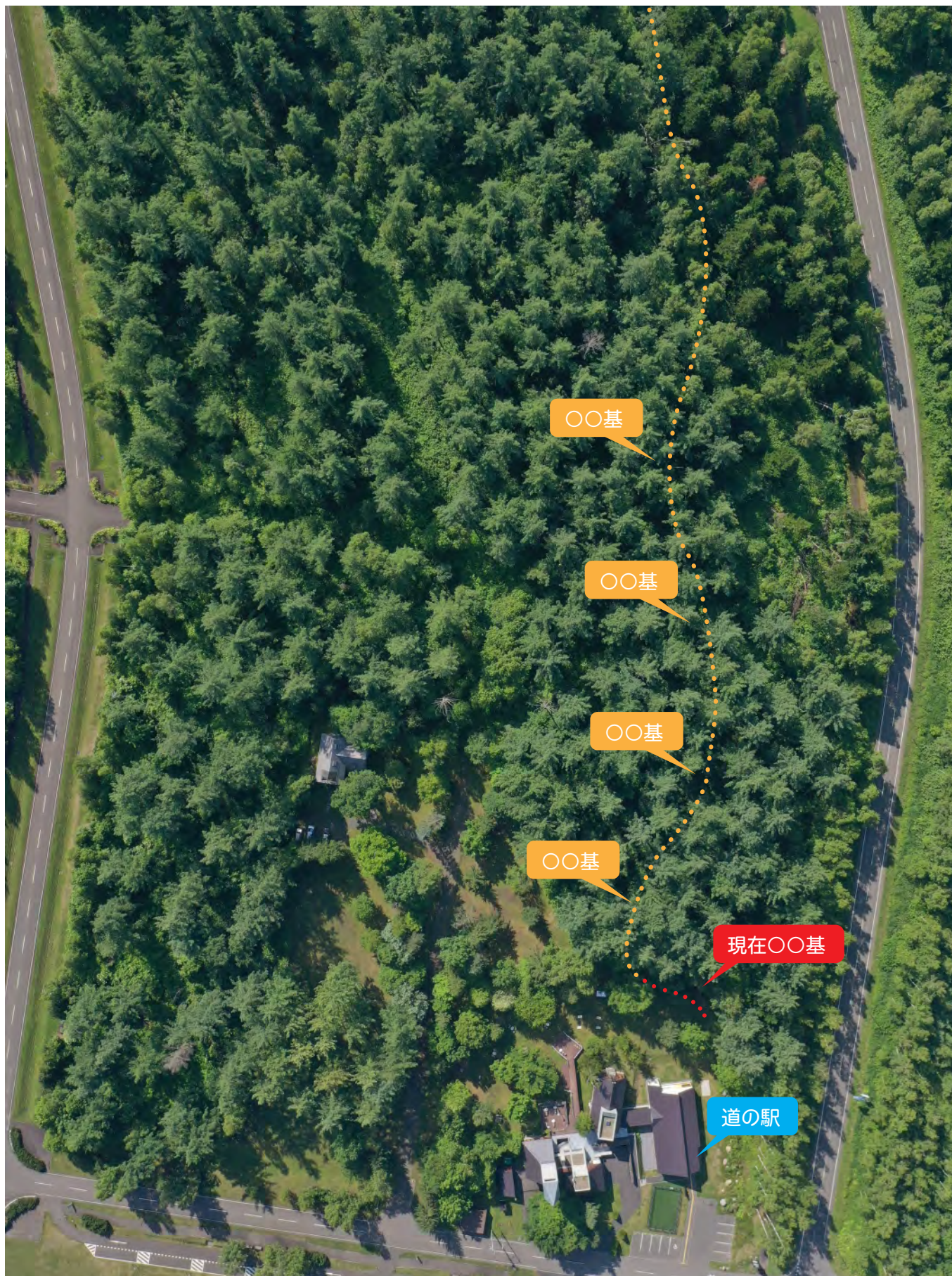


森周辺の自然環境

いつも暮らしのそばにあり、日本人の美意識を映す陶芸を、あえて北海道の厳しい自然環境下に置く。永い時間を経て土に還ってゆく様を通して、理念である“生きとし生けるものすべてが土に還る”ということを通じて伝えていきます。

セラミックツリーの森、小径（案）

歩いて、片道およそ 2,3km、30 分の森林セラピー。ビルケの森→皆空窯前→青い池



美瑛町の新たな文化づくりの提案

ビルケの森は、「第1回こども陶芸展」の記念すべき開催地。

今年で第8回を迎え（コロナ禍により中止）、こどもたちに創作の喜びや作品の鑑賞を通して、表現力の向上及び豊かな情操の育成を図ってきました。今では毎年恒例の展示会となり、一つの美瑛の文化として根づきはじめています。

そしてこのセラミックツリー事業は、その発展的構想として、こどもたちの参加はもちろん、年齢問わず全世代の参加を呼びかけます。さらには、全国そして海外の美瑛ファンなども含む全世界から参加することにも意義があります。

そこで様々な交流が生まれることで、美瑛独自の文化が作られ、「東川の写真甲子園」「旭川デザインウィーク」のように、一つの文化的な構想という側面から美瑛の活性に繋がるひとつの事業にしたいと考えます。

外からの鑑賞者を引きつける経済効果や、美瑛町民が自分の暮らす地域に新たな誇りを持ち、創造と鑑賞という枠を超えたプロジェクトが、セラミックツリープロジェクトです。

心の原風景のようなビルケの森だからこそ、セラミックツリーというメッセージを通して、この森の持つ潜在力と共振し、新たな魅力を発信します。

文化的構想

マチづくり

- ・ 美瑛町の新たな文化、企業活動一体となった「夢のある」持続可能な事業
- ・ 行政 - 活性化協会 - 観光協会、企業の連携)



ヒトづくり

- ・ 文化的事業を通して、心豊かな人材育成
- ・ 持続可能な事業に必要な人材確保
- ・ 事業継続を担う町内児童を対象とした人材育成、町民の雇用

ビルケの森にセラミックツリーの森を作ろう事業計画①

計画の趣旨

「こども陶芸展 in びえい10周年」を節目に、未来に向けて継続可能な記念事業としてビルケの森に「セラミックツリーの森」を作る。

計画の施策体系

• **基本理念** 「生きとし生けるもの全て土に帰る」

• 事業主体

造形集団「かまぐれ」

※実行委員会を設置し「セラミックツリーの森」実行委員会とする。

1～3 それぞれの作品をビルケの森に「セラミックツリー」として設置する

- 1 陶芸体験の実施（皆空窯） 趣旨に賛同し、制作作品の提供可能な美瑛町民（町職員、JA職員、教職員、観光協会、活性化協会、商工会、各美瑛会、美瑛ファン等）道内外、海外の観光客、各旅行代理店や各教育機関を通して全国の修学旅行生
- 2 学校教育 こども対象陶芸体験教室の実施（皆空窯）
- 3 社会教育 こども対象陶芸体験教室の実施（皆空窯）

• 基本施策

行政との連携 ビルケの森に「セラミックツリー」を建てる場所の提供

学校教育事業での陶芸教室の実施

社会教育事業での陶芸教室の実施

広報 活性化協会・観光協会との連携

広報全国観光協会、各教育機関、各旅行代理店、えんれい舎、じゃらん、宝島、アソビュー、町内外のホテル、ペンション、旅館の協力

→ホームページ・SNS（FB、インスタ、ツイッター）によるデジタルでの広報

→フライヤーなど紙媒体でアナログでの広報

→動画撮影（ドキュメンタリー / プロジェクト趣旨）

ビルケの森にセラミックツリーの森を作ろう事業計画②

道の駅であるインフォメーションセンターを発信の拠点にし、ビルケの森から世界に向けて、セラミックツリーの森を作ろう運動を進めます。

その他将来的には、クラウドファンディング等で資金を集め、ビルケの森内に遊歩道を整備し、遊歩道に沿って、セラミックツリーを建てることも検討。

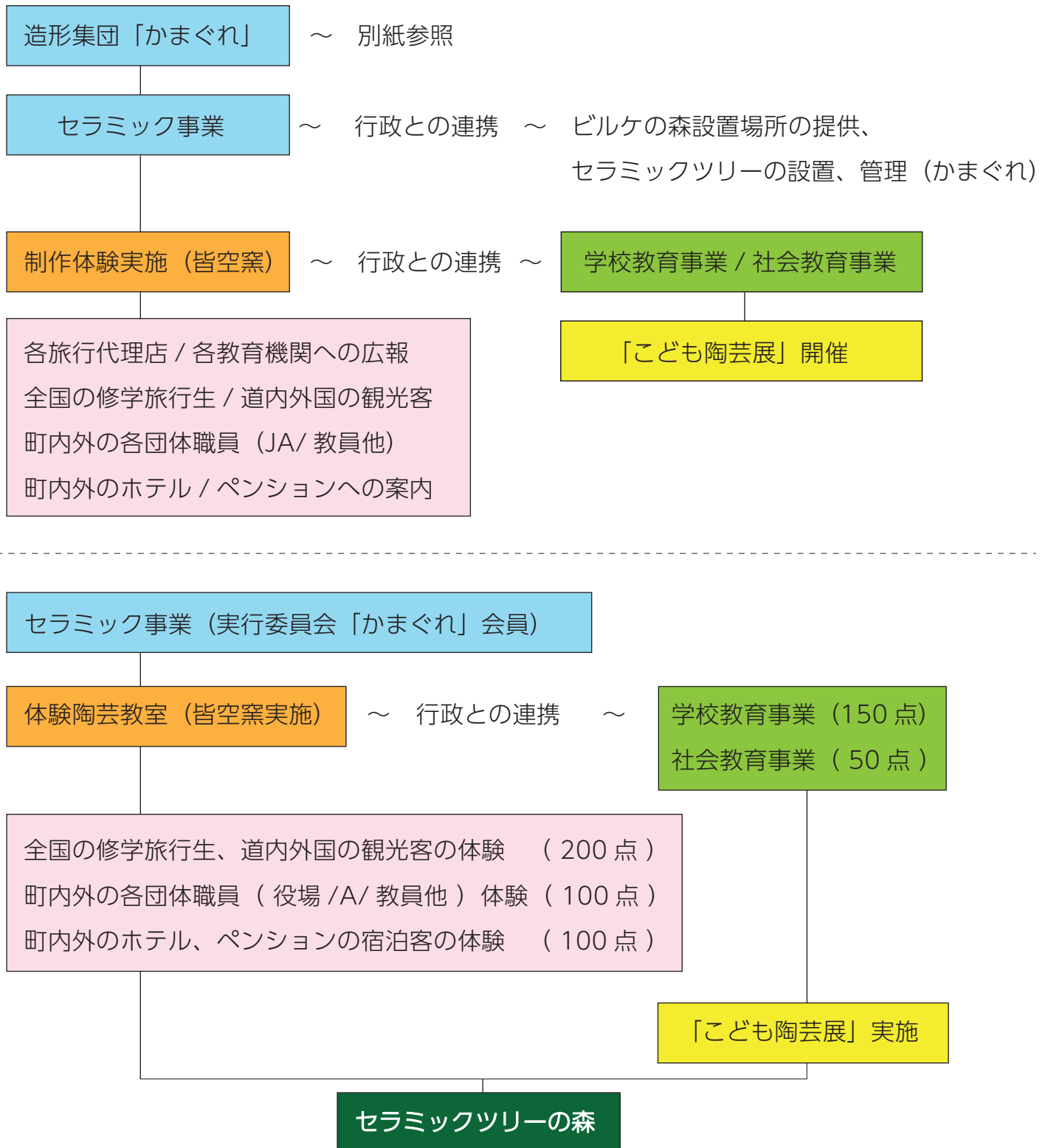
「かまぐれ」役員組織図

会 長	南正剛
副会長	南泉、時岡一秀
事務局長	斎藤隆喜
事務次長	夏神勉
事務員	斎藤礼子、細井義之
会 計	金子久美子
事業部	加藤哲朗、愛知達也、興梶勝也、米林慶太
監 査	岡崎幸彦

「こども陶芸展」実行委員会組織図

会 長	南正剛
副会長	南泉
事務局長	時岡一秀
事務次長	井沢誠
事務員	斎藤礼子、金子久美子
会 計	町職員
事業部	町職員、加藤哲朗、細井義之、夏神勉 愛知達也、興梶勝也、青木忠広、米林慶太
監 査	町職員

「セラミックツリーの森」展開図



年間 600 点およそ 60 基程を「[ビルケの森]」に設置を目指し、
将来的には 1 万基の「セラミックツリーの森」を目標とする